



(第129回全国農学系学部長会議説明資料2013.10.10)

農学知的支援ネットワーク

**- Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences -
(JISNAS)**

JISNAS 事務局

(jisnas@agr.nagoya-u.ac.jp)

(<http://jisnas.com/en/outline/organization.html>)

ネットワーク形成の背景

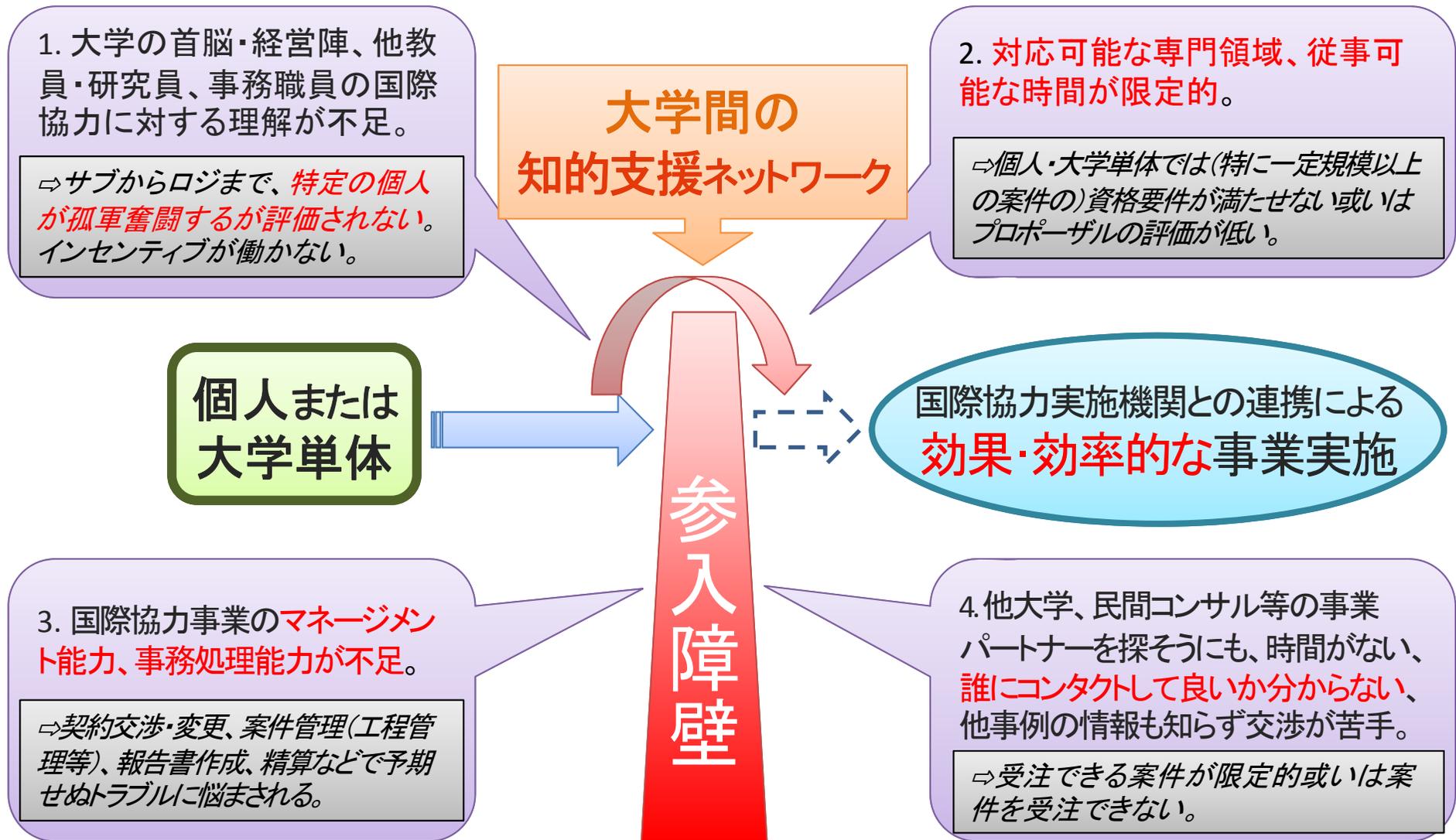
1. 国際協力と大学

- 国立大学の法人化(2004): 国際協力プロジェクトの受託、社会貢献としての国際協力
- 国際教育協力懇談会(2006): 知的源泉としての大学を有効活用した知的貢献、開発ニーズと大が有する援助リソースのマッチング、知的コミュニティの構築
- 総合科学技術会議(2007.4): 途上国に対するODAを活用した科学技術協力の強化(科学技術外交の強化)
- 「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業(2007~2010): 農学知的支援ネットワーク形成による国際教育協力強化・推進のためのモデル構築等
- 閣僚懇談会(2008.7): 留学生30万人計画(2020年を目途に30万人の留学生を受入)
- 地球規模課題に対応する国際科学技術協力(2008~): 大学の参画を想定した協カスキーム

2. 大学の現状と課題

- 国際協カ参画のための実施体制が脆弱
 - 研究者個人の努力と情熱に依存、研究者個人の負荷が大きい、活動が限定的
 - 国際協カのノウハウが組織内外に蓄積・共有されにくい
 - 国際協カに関わる人材の不足(サブおよびロジ)
- 大学の国際協カへの参加を推進する仕組みが必要

国際協力推進に係る大学の現状と課題 ～ネットワークの意義～



JISNASの目的と活動



- **設立:** 平成21年(2009年)11月30日
- **目的:** 本会は、農学分野における教育・研究・社会貢献等に係わる国際協力活動への参加の意図を有する大学間の連携及び大学と我が国の国際農業研究機関との連携を促進するために設置し、これら関係機関によるネットワーク体制の整備を行い、国際協力活動の推進に資することを目的とする。(会則 第2条)

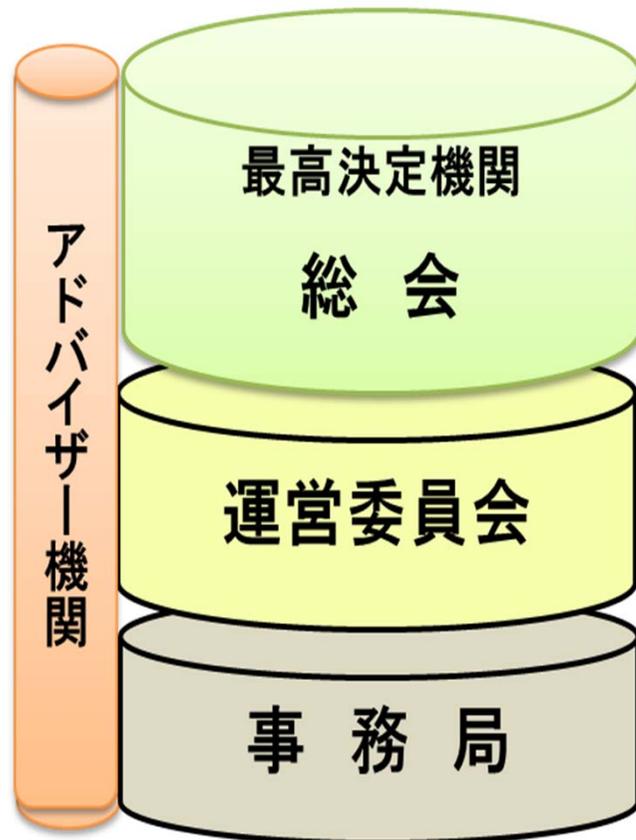
活 動

- ① 国際協力活動実施に必要な業務支援
- ② 分散した知識・技術(人的資源)のネットワーク化
- ③ 研究者、教員のモチベーションの維持・向上
- ④ ネットワーク活動による受託事業の促進
- ⑤ 国際協力活動に対する大学関係者及び一般社会の理解促進
- ⑥ その他、本会の目的を達成するために必要な活動

(会則 第3条)



ネットワークの運営体制



運営委員会

運営委員長 田中 耕司 京都大学学術研究支援室・室長

副委員長 山内 章 名古屋大学農学国際教育協力研究センター長・教授

運営委員

柏木 純一 北海道大学大学院農学研究院・講師

國分 牧衛 東北大学大学院農学研究科・教授

板垣 啓四郎 東京農業大学国際食料情報学部・教授

石川 智士 総合地球環境学研究所・准教授

江原 宏 三重大学副学長/大学院生物資源学研究科・教授

早川 茂 香川大学農学部長・教授

緒方 一夫 九州大学熱帯農学研究センター・教授 (順不同・敬称略)

アドバイザー機関

- 文部科学省
- 農林水産省
- 独立行政法人 国際協力機構(JICA)
- 独立行政法人 国際農林水産業研究センター(JIRCAS)

事務局

事務局長

浅沼 修一 名古屋大学農学国際教育協力研究センター・教授

事務局次長

今井成寿 名古屋大学Ph.D登竜門推進室・特任准教授

事務局員

伊藤香純 名古屋大学農学国際教育協力研究センター・准教授

犬飼義明 名古屋大学農学国際教育協力研究センター・准教授



ネットワークのメンバー

○団体会員 40団体 ○個人会員 50名 (2013年9月末時点)

北海道大学大学院農学研究院

酪農学園大学野生動物医学センター

弘前大学農学生命科学部

東北大学大学院農学研究科

山形大学農学部

新潟大学農学部

茨城大学農学部

筑波大学大学院生命環境科学研究科

宇都宮大学農学部

政策研究大学院大学International Development Studies Program

東京大学大学院農学生命科学研究科

東京農業大学国際協力センター

東京農工大学大学院農学研究院

東海大学海洋学部

静岡大学農学部

信州大学農学部

岐阜大学応用生物科学部

名古屋大学

大学院生命農学研究科

大学院国際開発研究科

農学国際教育協力研究センター

名城大学農学部

三重大学大学院生物資源学研究科

京都大学

大学院農学研究科

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

アフリカ地域研究資料センター

東南アジア研究所

神戸大学大学院農学研究科熱帯有用植物学研究室

岡山大学農学部

広島大学大学院生物圏科学研究科

鳥取大学農学部

香川大学農学部

九州大学

熱帯農学研究センター

大学院農学研究院

宮崎大学農学部

鹿児島大学

理学部

国際戦略本部

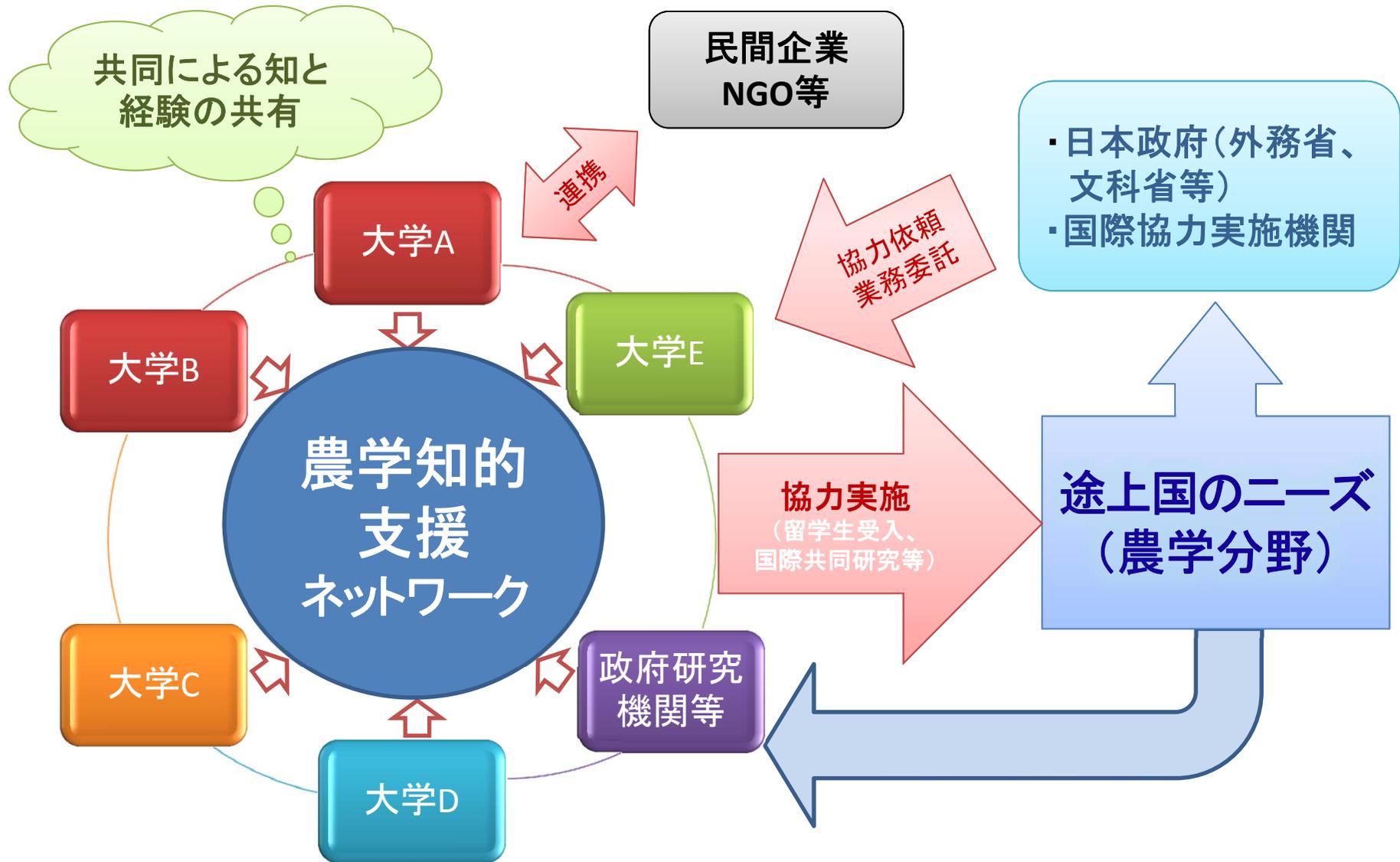
農学部

琉球大学農学部

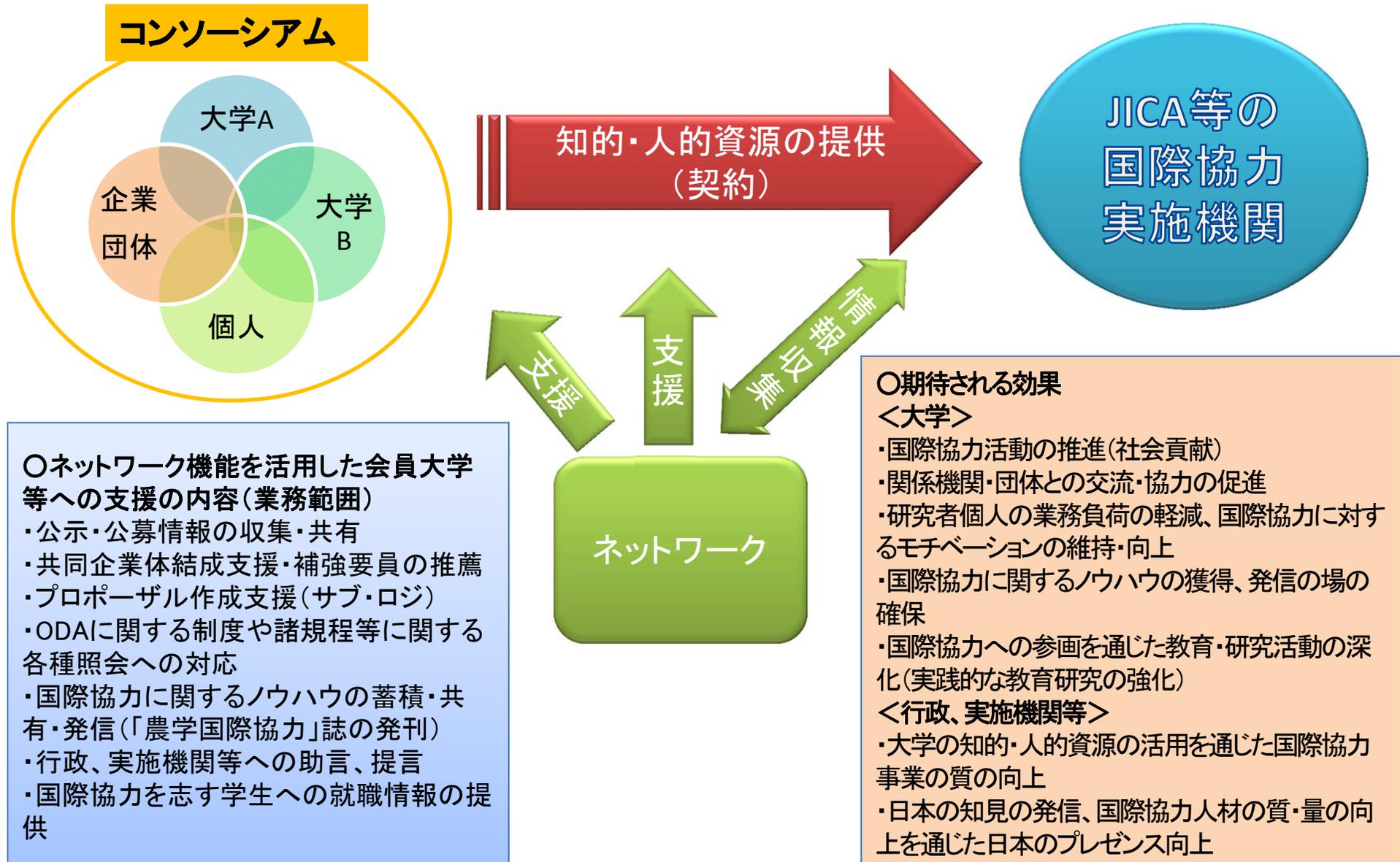
J-FARD(持続的開発のための農林水産国際研究フォーラム)

アジア経済研究所アフリカ研究グループ(オブザーバー)

ネットワークの基本イメージ



ネットワークの業務範囲と期待される効果 (国際協力プロジェクトの受注)



JISNAS 会員と事務局との情報伝達の流れ



大学による国際協力事業の形態

1. 留学生・研究生の受入
2. 集団研修(受託、講師)
3. 技術協力プロジェクト(直営型、契約型(一括受託、共同事業体、補強))
4. 地球規模課題対応国際科学技術協力事業
5. 科学技術研究員派遣事業 (2012年度で終了)
6. 草の根技術協力事業(パートナー型、支援型、地域提案型)
7. その他(調査研究等)



JISNASの活動事例

1. JICA技術協力

「アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」

- 5年間(2011-2015)最大500名の
アフガニスタン留学生(修士)を受け入れ
- 農学分野では2011年度7名,2012年度13名,2013年度24名を受け入れ

JISNASは『平成24年度 PEACE合同プログラム農業分野分科会』の開催支援



農学分野における受入大学と受入人数の推移

	第1バッチ	第2バッチ	第3バッチ
新潟大学	1		
東京農業大学	3	1	3
名古屋大学	1	1	
京都大学	1		1
宮崎大学	1	3	5
横浜市立大学		1	
三重大学		2	2
岡山大学		2	
島根大学		2	1
九州大学		1	2
茨城大学			4
筑波大学			3
東京大学			1
広島大学			2

農学分野では2011年度7名、2012年度13名、2013年度24名を受け入れ

PEACE合同プログラム/農学分野分科会

時期: 2012年9月24日－26日(3日間)

- **参加者:** 研修生、指導教員、TA、JICA関係者、JISNAS関係者
- **成果:** アフガニスタンと日本における農業の現状と課題の相互理解
 - ✓ アフガニスタン国の農業・農村開発分野の現状・課題とJICAの協力方針に関する留学生、指導教員及びJISNAS関係者の理解の深化。
 - ✓ 日本の農業事情、農学研究に関する留学生及びJICA関係者の理解の深化。
 - ✓ 留学生の研究計画、PEACEの効果や研究成果のあり方に係る留学生、指導教員、JICA関係者及びJISNAS関係者間の認識の共有



合同プログラムおよび農学分科会スケジュール(2012年)

			全体スケジュール	農学分科会
9月24日	月		開講式	
		午前	分野別導入講義開始	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの目的説明 (JISNAS事務局 浅沼修一) ・講演「日本の農業、150年間の開発の主要要因」 (名古屋大学 生源寺眞一教授)
		午後	<ul style="list-style-type: none"> ・広島平和記念館見学 ・広島平和都市計画 (広島市役所) 	
9月25日	火	午前	分野別ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画発表「自分の研究テーマとアフガニスタンにおける意義」
		午後	分野別ワークショップ (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画発表「自分の研究テーマとアフガニスタンにおける意義」 ・JICAのアフガニスタン農業農村開発支援プログラムの紹介 (JICA農村開発部 松浦由佳子) ・日本人向けミニ講演「アフガニスタンの農業と農業研究の現状」 (元JICA専門家 増永二之、鈴木隆裕) ・グループ討論「課題抽出・分類・課題体系図作成、まとめ」 3グループ：農業生産性向上、農村開発、水資源
		夜	交流イベント	
9月26日	水	午前	グループ発表 (3分科会合同)	
			閉講式・解散	
		午後		農業研究所訪問：近畿中国四国農業研究センター

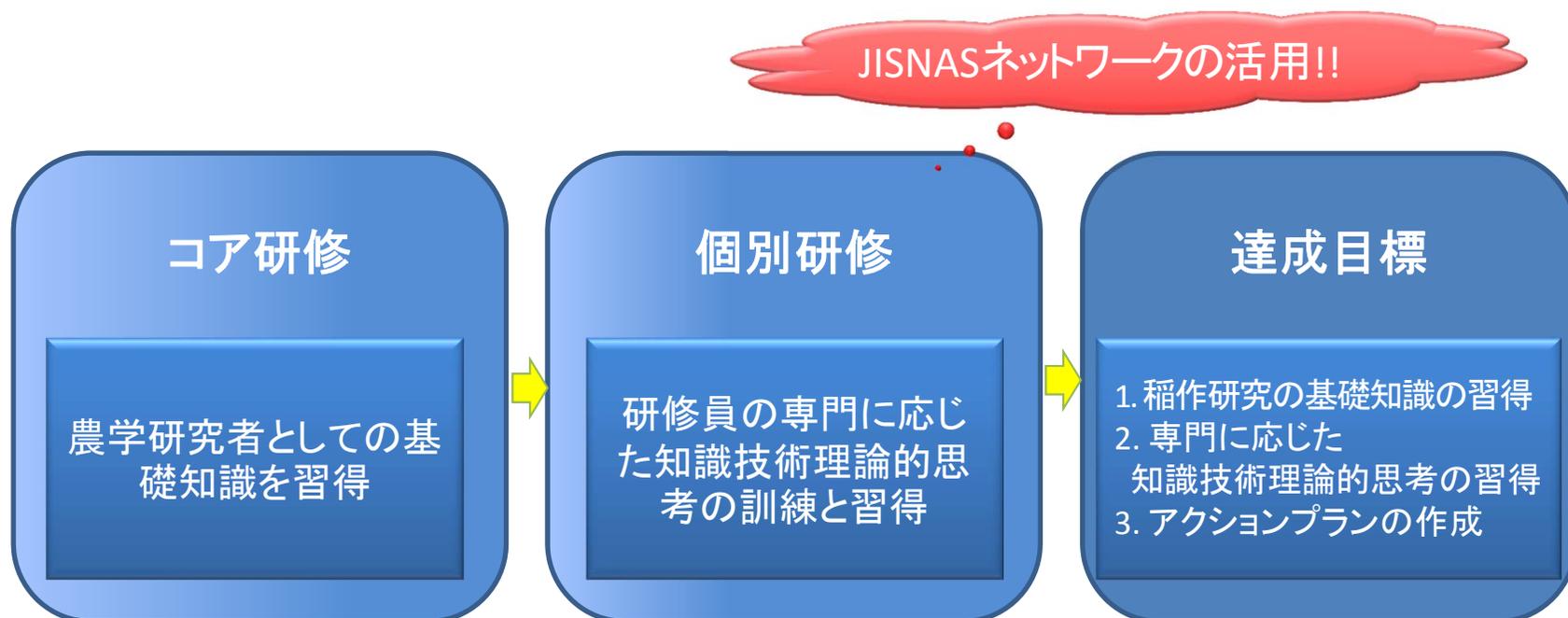
JISNASの活動事例

2. JICA課題別研修

「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」

- 実施期間：2012-2014年度

CARDイニシアティブへの大学貢献として、JICA課題別集団研修を受託しJISNASネットワークを活用した短期研修(1ヶ月)を実施しています。





**JISNASネットワークによる
研修員と受入大学
の効果的な
専門分野のマッチング!!**

- 2012年度: 研修員10名、5大学が連携して実施

山形大学・新潟大学・名古屋大学

・三重大学・京都大学

- 2013年度: 研修員14名、7大学が連携して実施

山形大学・新潟大学・名古屋大学・三重大学

・京都大学・岩手大学・茨城大学



答辞
(Dr. FALL/SENEGAL)

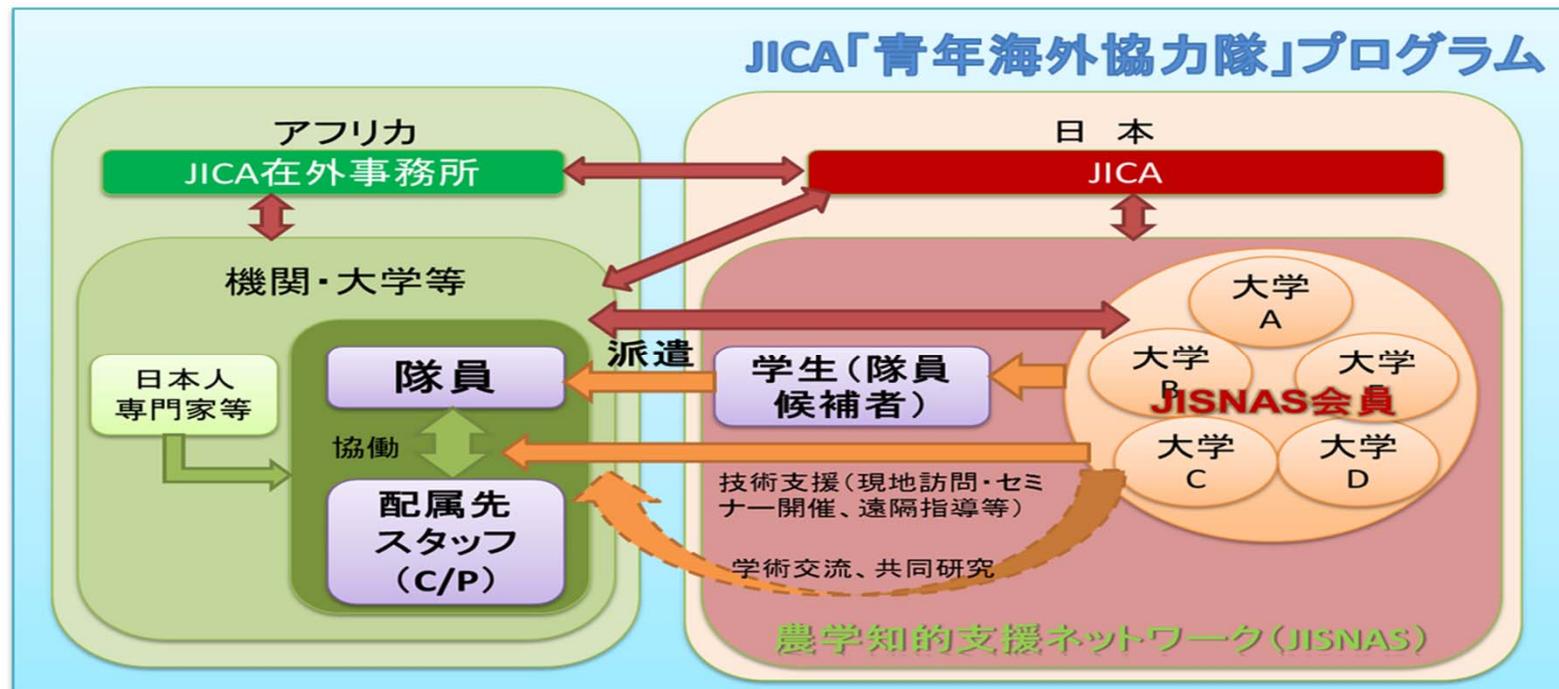


つくば合同研修

JISNASの活動事例

3. JICA-JISNAS連携事業 大学院生の青年海外協力隊 「食料の安全保障隊(仮称)」プログラム

日本の大学院生を青年海外協力隊としてアフリカ地域に派遣し、①アフリカの食料安全保障への貢献、②国際的な視野を持った日本の農学人材の育成、③日本の大学、JICA及びアフリカ農業関連研究機関間の人的ネットワークの構築・強化を目指す。



アフリカ側の協力ニーズ

エチオピア	JICA技術協力「農民研究グループを通じた適正技術開発・普及プロジェクト」
ウガンダ	JICA技術協力「コメ振興プロジェクト」
マラウイ	JICA技術協力「持続可能な土地管理促進プロジェクト」
ケニア	SATREPS「テーラーメイド育種と栽培技術の開発による東アフリカの生物的・非生物的ストレス条件下における稲作の安定化および生産性向上」
ブルキナファソ	SATREPS「アフリカサヘル地域の持続可能な水・衛生システム開発」
モロッコ	JICA技術協力「モロッコ小型浮魚資源調査能力強化プロジェクト」
スーダン	連邦農業省農業研究機構、ハルツーム大学農学部
ザンビア	JICA技術協力「コメを中心とした作物多様化推進プロジェクト」
アフリカ・ライス・センター	国際機関

※2012年1月の調査時点

本プログラムに関心を示した大学

- 山形大学
- 東京大学
- 東京農工大学
- 宮崎大学
- 新潟大学
- 鳥取大学
- 名城大学
- 名古屋大学
- 東京農業大学
- (国際農林業協働協会)



JISNAS事務局からの照会メール(2011.10.25付)への回答結果

青年海外協力隊「食料の安全保障隊(仮称)」プログラム構想

<実施事例と計画案件>

■ 実施

ブルキナファソ	山形大学M2(短期派遣H24.6-H24.10)
ウガンダ	千葉大学M1(短期派遣H24.7-H25.1)
エチオピア	名古屋大学M2(短期派遣H25.6-H26.3)

■ 計画

ケニア	山形大学(長期 H26派遣予定)
タンザニア	酪農学園大学D1(長期 H26派遣予定)
ベナン共和国	高知大学M1(長期 H26派遣予定)

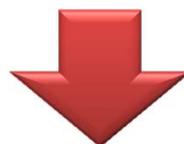


JISNASの活動事例

4. 学術誌「農学国際協力」(査読付)

一般投稿受付中

国際協力に係わる農学研究者や開発研究者の業績が
評価されるしくみの必要性



研究成果を発表する 学術誌「農学国際協力」(査読付)
をリニューアル刊行

JISNASが編集委員を委嘱。



編集委員会 (任期H2013.4.1～H2015.3.31)

編集委員長

緒方 一夫 九州大学熱帯農学研究センター・教授

副編集委員長

安中 正実 国際農林水産業研究センター・理事

編集委員

浅沼 修一 名古屋大学農学国際教育協力研究センター・教授

石川 智士 総合地球環境学研究所・准教授

柏木 純一 北海道大学大学院農学研究院・講師

熊代 輝義 国際協力機構農村開発部・部長

小山 修 国際農林水産業研究センター研究戦略室・室長

前多 敬一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科・教授

山内 章 名古屋大学大学院生命農学研究科・教授

編集幹事

犬飼 義明 名古屋大学農学国際教育協力研究センター・准教授

リニューアル1号 「農学国際協力Vol.12」 2012 March

Vol.12



巻頭言

今求められる農学国際協働と人材育成	堀江 武
Developing Future Experts in Agriculture for Development: Some thoughts on the challenges of capacity-development to address inter-disciplinary problems	Shawn J. McGuire

総 説

農学国際協力における知識創造の可能性と課題—国際フードシステム論の視点から—	木南 莉莉
国際開発学からみた農学国際協力の人材育成への期待	西川 芳昭

原 著

ラオスにおける伝統的な淡水魚食品の加工方法 —ヴィエンチャン市の家庭から見る食文化の変容—	高木 映・他
農学分野の国際協力に関する日本の援助リソースと開発途上国の支援ニーズの マッチング分析を通じたプロジェクト形成支援の可能性	横原 大悟・他
人材育成の観点からみた山形大学農学部での国際協力のこれまでの取り組みと今後の方向	佐々木由佳・他
国際交流・国際協力の拡大と活性化に向けた三重大学における人材養成の取り組み	江原 宏
ザンビア大学獣医学部の創設—アフリカの未来を創る教育プロジェクトへの挑戦—	金川 弘司
カンボジアにおける農産物加工産業振興モデルの構築を通じた人材育成 —実践的な研究・教育の場としての国際協力活動の事例から—	伊藤 香純
ストレス科学研究を基盤とした東アフリカ地域での作物生産性向上を目指して	坂本 亘・他

ケースレポート

国際農林水産業研究センターにおける外国人招へいプログラム	内田 諭・他
------------------------------	--------

Vol.13 (2013年刊行予定) 原著論文4報、総説2報、ケースレポート6報 査読中

Vol.14 (2014年刊行予定) テーマ「国際的に活躍する人材、そのキャリアパス」
のケースレポートを中心に**原稿募集中**



JISNASの活動事例

5. 途上国の大学に対する国際教育協力の推進

複数の大学による
協働支援

1) ミャンマー農業人材育成支援に向けた取り組み

イエジン農業大学への実学をもとにした教育協力(教育・技術協力プロジェクト)。

2) カントー大学(ベトナム)支援に向けた協力の可能性

3) アスンシオン大学(パラグアイ)で新設予定のアグロインダストリー学科への協力の可能性

パラグアイにおけるアグロインダストリーに係る高等教育強化を通じた人材育成にむけ、JISNAS会員大学の支援リソースの活用の可能性を模索。



JISNASの活動事例

6. 国際協力活動に関する情報紹介

1) 文部科学省:

BIOTROP(SEAMEOセンター) 専門家(短期)

2) JICA:

アフリカ稲作専門家、エチオピア残留農薬研究者、高等教育支援(ミャンマー、ベトナム、インドネシア、ケニア)

JISNASネットワークの活用
による
専門家の紹介事例

会員登録



種別： 団体会員、個人会員

会費： **無料**

(総会等の会議出席に必要な旅費等の経費はそれぞれが負担)

入会方法： ホームページ上から手続き可能

<http://jisnas.com/request/index.html>

入会申し込み希望の方は、JISNAS事務局までご一報ください

Tel:052-788-6166 jisnas@agr.nagoya-u.ac.jp

JISNASホームページ



農学知的支援ネットワーク

Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences

大 中 小



検索

委員長挨拶

JISNASについて

JISNASの活動

プロジェクト等
募集情報

刊行物

会員専用



最新情報

[過去の一覧を見る](#)

お知らせ

▶ 2013年9月25日

[第14回オープンフォーラム「世界で活躍できるグローバル農学人材の育成に向けた大学の取り組みの方向性—多様なキャリアパスの開拓に向けた現状と課題—」](#)

会員 お知らせ

▶ 2013年9月13日

[【会員用】第5回\(2013年度\)農学知的支援ネットワーク\(JISNAS\)総会のご案内](#)

お知らせ

▶ 2013年9月13日

[第5回\(2013年度\)農学知的支援ネットワーク\(JISNAS\)総会のご案内](#)

お知らせ

▶ 2013年9月12日

[地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム\(SATREPS\)平成26年度募集](#)

お知らせ

▶ 2013年9月10日

[JISNAS JI <最新号 9/10>](#)

会員 活動報告

▶ 2013年9月9日

[【報告】25年度JICA課題別研修\(集団\)「アフリカ農業生産振興のための中核的農学研究者の育成」](#)

！入会申込はこちら ▶

JISNASリーフレット▶

<http://jisnas.com>



ご清聴ありがとうございました。



農学知的支援ネットワーク事務局

(名古屋大学農学国際教育協力研究センター内)

464-8601名古屋市千種区不老町

TEL: 052-788-6166 FAX: 052-789-4222

E-mail: jisnas@agr.nagoya-u.ac.jp

Web: <http://jisnas.com/>

本日の配布資料は、JISNASホームページ (<http://jisnas.com/news/239.html>) からダウンロードできます。
また、データ(CD)でも用意いたしますので、JISNAS事務局までお申し付けください。